

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0270301385		
法人名	有限会社 ゆき		
事業所名	グループホーム そら		
所在地	八戸市大字大久保西ノ平25-207		
自己評価作成日	平成30年11月7日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・職員が利用者と一緒に楽しめるようドライブや誕生会、旅行、流しそうめん、ミニ運動会等のイベントがある。 ・感染症、事故防止検討、身体拘束虐待防止委員会があり、年間計画を作成し、研修を開催したり、現場でのケアについて振り返り、職員で話し合いの場を設け、ケアの向上に努めている。 ・運営推進会議の委員や地域住民によるボランティアに協力を得て、ミニ運動会やお茶会を開催する等、利用者と地域の方が触れ合うことができ、認知症の理解を図っている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 青森県社会福祉協議会
所在地	青森県青森市中央3丁目20番30号
訪問調査日	平成30年12月6日

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は地域密着型サービスに基づき、実践に向けて管理者や職員は研修やホーム内に理念を掲示し、共有を図れるように取り組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	住み慣れた地域で生活できるように町内会へ加入しており、いきいきサロンや病院の夏祭りに参加している。ホームでは収穫祭や餅つき等を通じて、地域の一員として交流している。また、地域の方からボランティアとして、ホームのイベント(小旅行、ミニ運動会等)に参加していただき、交流している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	年1回の家族会では地域の方にも参加していただき、認知症について寸劇を行っている。また、ホーム見学や認知症に関する相談は認知症上級ケア専門士やケアマネージャーが対応している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では日々の活動や各委員会の報告、自己評価及び外部評価結果を公表し、サービスの質の向上に繋げるよう、意見交換を行っている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議や家族会に出席していただき、取り組みを伝え、意見をいただいて関係を築いている。自己評価及び外部評価、目標達成計画を提出している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠はもとより、身体拘束とする状態はない。また、虐待防止委員会や身体拘束防止委員会を設けており、定期的に会議をして、会議録は全職員に回覧している。ホーム内研修を行い、正しく理解したケアに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修の機会を設け、虐待の行がないよう、スピーチロックの事例を挙げ、ユニット毎に取り組みを行い、言葉による虐待の防止にも努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全職員はホーム内研修を通じて学ぶ機会を設けている。必要に応じて家族へ情報提供や利用に繋げる支援を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にはホームの理念やケアの方針、取り組みについて説明している。利用者や家族の不安・疑問点を確認し、一方的にならないように一つひとつの項目について説明し、その時の状態に合った情報を提供している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱をホーム玄関へ設置したり、家族会でアンケートを取り、意見等に対して全体会議で改善できるか話し合いをしている。家族が意見を出しやすいように毎月、利用者のホームでの様子や受診等について、電話・そらだよりにて報告している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議やユニット会議を月1回行い、代表者や管理者は職員と話し合い、意見提案があった際は迅速に対応している。代表者は利用者と職員が良好な関係を保てるよう、勤務体制の配慮や異動を行っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職員の日々の努力や勤務状況等を把握している。年2回、職員の健康診断を実施し、職員の心身の健康を保てるように体制を整えている。また、各職員が向上心を持てるように資格取得の支援やキャリアアップに繋がるように目標を決め、面談している。また、希望する休日に休めたり、異動する機会を設けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間の研修計画を作成しており、それに基づき、研修や伝達講習を行っている。実践に活かせるよう、グループワークやロールプレイを行っている。受講後はレポートを提出し、資料回覧も行っている。採用時の研修後はOJTも行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	口から食べる幸せを守る会を通じて勉強会に参加し、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談や不安等に耳を傾け、安心して暮らしていけるような関係作りに努めている。また、不安や要望からニーズを見極め、他のサービス利用も含めた柔軟な対応に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族と面談する等、直接話を聞く機会を設けて、介護保険制度やグループホームの特徴を説明し、相談を受ける際には家族と信頼関係を築くことを意識しながら対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者や家族の要望を聞きながら、「できる事」「できない事」を見極めながら対応して、支援している。他のサービス等、対応できる事については実行している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	買い物の際、利用者の希望を聞いて献立を決めることもあり、食器洗いや洗濯物干し等、得意な事を活かして活動できるように、職員と一緒にいながら、共に暮らしていけるよう関係づくりに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	受診やイベント等、情報交換ができるよう、面会時や電話を用いる等して、支えていく関係を築いている。また、利用者や家族の関係を理解し、共に支えていく関係づくりに努めているほか、来訪時にはゆっくりと話ができるような環境や雰囲気づくりをしている。年1回の家族の会を開催し、意見交換できる機会を設けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者がこれまで関わってきた人や馴染みの場所等、把握に努めて、利用者がこれまで関わってきた人との交流を継続できるように支援している。いきいきサロン等に参加し、一緒にいる時間を作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ユニット内では利用者同士の関係を把握し、互いに関わったり、他ユニットとも行き来しながら交流し合えるように支援している。また、利用者同士が関わり合えるようなテーブル席の配置を行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も家族から情報をいただいたこともある。必要時は関係者に対して利用者の情報を伝え、継続性に配慮してもらうように働きかけている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケース会議やユニット会議にて、利用者一人ひとりの思いや暮らし方について話し合っている。意向が十分に把握できない場合は、職員が利用者の視点に立って話し合い、把握するように努めたり、利用者をよく知る家族や関係者から情報をいただいている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	フェイスシートにまとめ、いつでも見られるようになっている。生活歴や環境等の情報を収集し、利用者にとって居心地の良い暮らしができるよう、把握に努めている。また、サービス利用の経過等について、家族から情報収集している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日課表を使い、利用者の1日の暮らし方や生活リズムの把握に努め、食事量や睡眠、排泄パターンも把握し、体調や認知症による生活リズムの変化にも対応できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者一人ひとりの言動や表情からニーズを導き出し、職員の受け取り方や関わり方を話し合い、統一した上で介護計画を作成し、家族にも意見や要望等を相談している。受診時には主治医や看護師より日常生活等で注意する点や必要な事についてアドバイスを受けている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日課表は身体面と生活面に分け、1日の様子が分かるように個別化している。ケース記録は介護計画の具体策に沿ってアプローチした内容を具体的に書いている。申し送りをを行い、カードックスや申し送りノートから情報を共有しやすくしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族や友人、知人の送迎を行ったり、お試し利用ができる等、柔軟な支援をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員やボランティア等の協力を得て、利用者の意向に応じて公民館で行われる催し物に参加している。運営推進会議で消防訓練を行った際は、消防署員が立会い、助言を得ている。1人で散歩に出て戻って来られなくなった利用者について、警察や地域の方から意見をもらったり、対応について話し合っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族の希望により、かかりつけ医への受診や受診介助を行っている。職員が受診介助する際は主治医へ現状を報告し、適切な医療を受けられるように支援している。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	24時間いつでも看護師が対応できる体制を取っている。異常を発見した時はすぐに状況報告し、指示をいただき、対応している。昼夜問わず緊急時にはホームへ駆け付けてくれる。利用者の変化があった時に報告するポイントを明記することで、職員は理解している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には情報提供を行い、入院中の情報交換等を病院、家族と行っている。入院した時は安心して見舞いへ行き、担当看護師とまめに情報交換を行っている。退院後、ホームへ戻られる際は介護計画を見直し、新しく作成している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方について、ホームとして明確な方針を立てている。契約時に事前調書を利用者や家族に記入していただいている。職員はターミナルの研修に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	夜間も含めて応急手当や連絡方法に関する緊急時対応マニュアルを作成している。また、緊急時における対応の研修を行い、全職員が救命救急の研修に参加している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行っている。地域との連携で連絡網を作成し、協力体制を築いている。半年に1回、地域の方も交えて避難訓練を行っている。避難訓練は自主訓練を含め、年6回行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の自尊心、羞恥心に配慮し、心理的虐待とにならないように努め、その人らしさを大切に声かけを行っている。また、職員間で必要時は話し合い、利用者一人ひとりの人格を尊重するように注意している。利用者の言動を否定・拒否しない対応について、職員で日々の確認や改善の取り組みをしている。個人情報や書類の管理にも気を付けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一方的に職員が決めるのではなく、日常生活の会話を通して、利用者の思いや要望を表せるように働きかけ、自己決定ができるようにしている。意思表示が困難な利用者でも、表情やしぐさ等から読み取るように努力している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者目線で生活を共にし、その人らしい暮らしができるよう、利用者一人ひとりのペースを大切にした過ごし方や休息等、希望に沿えるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に訪問理容を利用し、毛染めも希望に応じて行っている。服は季節に合った物や利用者の好みに配慮している。外出時はおしゃれが楽しめるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	郷土料理や旬の物等、季節を味わえるようにしている。会話を楽しみながらの食事や調理の準備、後片付け、味見等、一緒に行っている。食事の際は一緒に席に着いて食事を摂り、利用者の好みや苦手な物、食べこぼしに配慮している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事に制限がない限り、利用者一人ひとりの状況に合わせた栄養バランスの良い献立を考え、必要に応じて食事や水分量の記録している。歯が欠損したり、嚥下の良くない利用者には食事形態を工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は声がけし、口腔内の洗浄や義歯の手入れを行い、利用者一人ひとりの力量に応じて、見守り支援している。また、混乱等で口腔ケアができない時は、その人に合ったケア用品を検討し、使用している。義歯が破損した時は訪問歯科を利用している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	トイレサインを見極めて、利用者の羞恥心やプライバシーに配慮しながら、トイレ誘導している。また、排泄パターンを把握し、間隔を見て誘導する等、トイレでの排泄に繋がるように支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	こまめに水分提供を行い、便秘予防に努めている。バランスの取れた食事の工夫やレクリエーション、体操、歩行等で運動に繋がるように働きかけを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた支援をしている	曜日や時間帯は決まっているが、その中で入浴は週3回行っており、利用者の習慣に配慮しながら、安全に留意した上で入浴できるように支援している。入浴したくない場合は入りたいと思える時間に合わせて、入浴の支援を行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣や状況に応じて、ソファや居室で休息している。また、就寝時間を決めずに眠くなるまで自由にホールでテレビを見て過ごせるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医薬情報を確認し、誤薬しないようにダブルチェックや分包時に色分けして分かるようにしている。配薬時は飲み忘れや誤薬が無いよう、飲み込むまで見守りしている。状態変化時は記録に残し、医師や看護師、家族に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	喜びが感じられるよう、利用者の生活歴や力量を把握し、家事等を働きかけている。外出や外食等で気分転換を図ったり、食べたい物が食べられるように支援している。また、月1回の移動スーパーを活用し、利用者を選んでいただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	職員と共に買い物へ出かけたり、地域の行事に参加している。家族との外出や外食を定期的に行っている利用者もいる。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が困難な場合は小遣いとして預り、利用者の希望に応じて嗜好品や生活用品の購入を支援している。また、移動販売時には一緒に行き、欲しい物が購入できるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話を掛けたり、家族とやり取りができるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホール内には季節を感じられるように絵等を制作して掲示している。空調等が不快に感じることはないように配慮している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	小上がりにコタツを設置し、家庭的な雰囲気になっている。気の合った利用者同士でいつでもソファで寛いだり、居室で一人になったりと、思い思いに過ごしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームの物ではなく、希望に合わせて利用者の使い慣れた馴染みの布団や家具(仏壇)等を持って来ていただき、居心地良く過ごせるようにしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者に分かりやすいように、トイレ表示を大きくしたり、居室には利用者名を表記し、混乱しないように配慮している。手すりを付け、安全に歩行できるようにしている。福祉用具(車イス・シャワーチェア・滑り止めマット)等は定期的に危険がないか確認している。夜間はトイレの場所が分かるように戸を開けておき、光が廊下に漏れるようにしている。		